

No.19

湾岸戦争について。

1990 年 8 月のイラクのクウェート侵攻以降、国連安保理は再三にわたってイラクに撤退を要求、翌 91 年 1 月 15 日までに撤退しない場合は、武力行使を加盟国に認める決議を成立させた。期限切れ直後、米軍を主力とする多国籍軍のイラク空爆で戦争が開始された。

戦局は多国籍軍の圧倒的優位のうちに推移、同年 2 月末にはクウェートからイラク軍が一掃されて停戦が成立した。だが、敗北にもかかわらずフセイン体制は存続。フセイン体制をいかにすべきかという問題が残った。湾岸戦争は問題の解決ではなく、イラク戦争への通過点であった。この戦争が示したのは米軍の圧倒的な強さであった。日本、ドイツ、アラブ産油諸国による戦費の負担も特記されるべきである。

---

No.20

イラク戦争とは、アメリカを中心とした有志連合軍がイラクへ軍事介入し、当時のサダム＝フセイン政権を倒した戦争です。連合軍の攻撃理由は「イラクが大量破壊兵器を保有している」というものでした。

2003 年 3 月 20 日、アメリカ軍によるイラクの首都バグダード（バグダッド）への空爆を皮切りに、戦闘がスタート。アメリカ、イギリス両軍による陸上部隊の侵攻や、各所への本格的な空爆がおこなわれました。4 月 9 日にバグダードが陥落。アメリカ軍とバグダード市民により当時のイラクの指導者、フセイン像が倒されました。

イラク軍は抵抗をやめ、5 月 1 日に当時のアメリカ大統領ブッシュが勝利宣言をしたのです。空爆などによってイラク国内で多くの死傷者が出ています。

---

Np.21

シリアにおいて、シーア派を主とする政府軍と、スンニ派を主とする反政府軍との間で内戦が起こりました。しかし、最初は紛争ではなく、民主化を求めるだけのデモ運動に過ぎませんでした。

反政府軍が近隣国から様々な支援を受けることで武装蜂起を行い、自由シリア軍を結成したことで両者の対立が激化します。さらに自由シリア軍は拡大を続け、内部でも意見がわかれヌスラ戦線という過激派組織が独立します。

アサド政権もロシアやイランの後ろ盾を受け、反撃を行いますが、政府軍側のシーア派過激組織ヒズボラも参戦し、内戦はさらに激化。ここにイスラム国が勢力を拡大する目的で介入し、政府軍、反政府軍、イスラム国という三つ巴の戦いとなり、内戦を泥沼化させることとなりました。